

総合的な診療能力を高める 診断推論戦略 Up To Date

近年、わが国では地域における医療体制の見直しや医師の地域偏在および診療科偏在を解消する重要性が再認識されるとともに、高度医療の浸透や地域構造の変化を踏まえた新時代に適応可能な医療人材の養成といった課題が顕在化している。そのなかで、これらの課題を解決するために「総合的な診療能力を有する医師」の育成が求められている。内閣府からの「経済財政運営と改革の基本方針 2024」にも明記されているほか、卒前の医学教育の教育指針となる「医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)」(文部科学省)でも「総合的に患者・生活者をみる姿勢」が新たな資質・能力として追加された。上記の背景のなか、「総合的な診療能力」を醸成することが、医学生や若手医師に限らず、実地医家にとっても「リカレント教育」としてその能力を再度磨き上げる必要性が高まっていることがわかる。

「総合的な診療能力」といっても、様々な診療能力が含まれているが、本特集ではそのなかでもすべての医師にとって基盤となる診断推論にフォーカスした企画としている。「診断」がつくことは適切な「治療」への第一歩であるが、一般外来、救急外来、病棟などでの診療において診断に確信がもてない、あるいは診断が想起できないと感じることは医師であれ

ば少なからず経験することであろう。診断の不確実性に直面することは、患者のアウトカムを妨げる可能性だけでなく、医師は専門職として大きな心理的負担にもなる。

それでは医師の基盤ともいえる診断推論の思考プロセスはどのようにして修得するのがよいであろうか。診断推論の思考プロセスは一部の卓越した臨床医が有する「アート」や「名人芸」と揶揄されることがある。しかしながら、診断推論には医師が本質的な能力として活用できる「戦略」があり、診断推論戦略は診療所や病院、地方や都市などの診療設定にかかわらず、医師にとって有用な技法である。本特集では診断推論戦略に精通したエキスパートが、診断推論戦略についてクラシカルな方略から近年新たに提唱されている方略まで、診断推論戦略を Up To Date することを目的としている。また、各論ではそれぞれの診断推論戦略に加え、その戦略について症例を通じてどのように活用するかについても解説する。本特集が、これから診断推論戦略を学ぶ初学者や、さらに診断推論能力を向上させたい熟練医まで、実地医家が「総合的な診療能力」を涵養するための一助になることを願う。

千葉大学大学院医学研究院地域医療教育学/千葉大学医学部附属病院総合診療科
鋪野紀好